

Oil Market Review 22第46号

2023年（令和五年）

3月3日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カシドキ10階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

2/16～2/22のNYMEX・WTI先物市場は73.95～78.49ドルの範囲で推移した。

2月23日は、既に、経済制裁への対抗措置として、3月から産油量日量50万バレルの減産を決定したロシアが追加減産を行うとの観測から、7営業日ぶりに反発した。ただ、この日発表の高水準の米国原油在庫が上値を抑えた。4月限終値は前日比1.44ドル高の75.39ドル。

週末24日は、前日に続き、ロシアの原油輸出25%削減との観測報道もあり、ロシアからの供給懸念が拡大し、続伸した。ただ、この日発表の1月の米国消費者物価指数は前年同期比5.4%増と7か月ぶりに加速し、利上げの継続が意識され上値を抑えた。4月限終値は前日比0.93ドル高の76.32ドル。

27日は、先週発表された種々な米国経済指標を背景に、利上げ継続・長期化懸念の高まりから、3営業日ぶりに反落した。ただ、朝方は、25日のロシアによるポーランド向け原油パイプラインの供給停止(約30万b/d)の報道で上昇が見られた。4月限終値は前日比0.64ドル安の75.68ドル。

28日は、2月のロシア産原油の中国向け輸出の増加報道を背景に、中国経済の回復期待から、反発した。ただ、米国の利上げ継続・長期化懸念が依然として根強く、上値を抑えた。4月限終値は前営業日比1.37ドル高の77.05ドル。

3月1日は、中国官民の2月の製造業購買担当者景気指数が相次いで節目の50を上回り、中国経済の回復期待が高まり、続伸した。また、米国では前週末の原油在庫が積み増しとなったものの、ガソリン在庫は取り崩しどなり、製品需給の引き締まりを認識させた。4月限終値は前営業日比0.64ドル

高の77.69ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(4月度)は、2月16日～22日の間、81.00～84.30ドルの範囲で推移した。2月24日81.40ドル、27日81.10ドル、28日81.10ドル、3月1日81.90ドルで推移した。

為替は、2月16日～22日の間、134.15～134.90円の範囲で推移した。2月24日134.19円、27日136.27円、28日136.33円、3月1日136.41円で推移した。

財務省が2月24日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、2月上旬の原油輸入平均CIF価格は、70,712円で、前旬比864円安、ドル建て86.96ドルで前旬比0.16ドル安、為替レートは1ドル/129.28円だった。

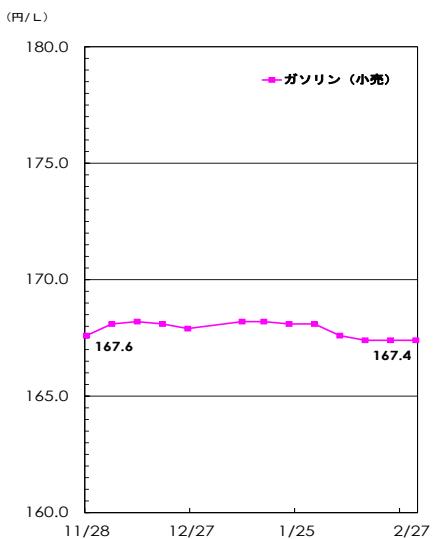
そのような中で、2月27日時点の価格は、ガソリンが前週比横ばい、軽油は同0.1円の値下がり、灯油は同2円の値下がり(18リットルベース)であった。ガソリンは2週連続の横ばい、軽油は2週ぶりの値下がり、灯油は2週ぶりの値下がりだった。ガソリンの全国平均価格は167.4円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は17.0円となった。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	2/19～2/25	3,096	▲ 36	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	83.5	▲ 1.0	▲ -
	原油在庫量 (千㎘)	2/25	10,589	▼ -246	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	2/27	79.47	▼ -1.35	▼ -13.7
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	2/27	75.68	▼ -0.48	▼ -20.0
	原油 CIF単価 (\$/bbl)	2月上旬	86.96	▼ -0.16	▲ 0.21
	①原油CIF単価 (¥/㎘)	"	70,712	▼ -864	▲ 8,052
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	129.28	▲ 1.34	▼ -14.45
	外国為替TTSレート (¥/\$)	2/27	137.27	▼ -1.82	▼ -20.72



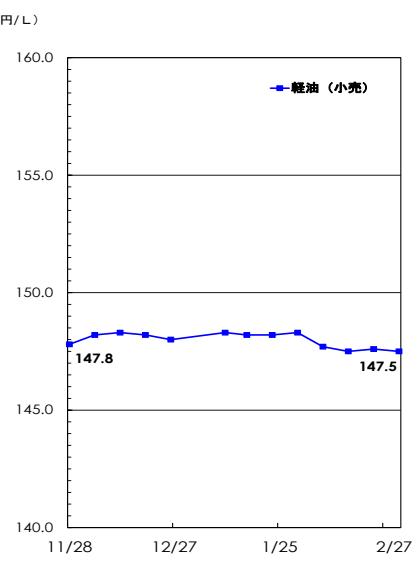
ガソリン		今週	前週比	前年比
需給				
需給	生産	2/19 ~ 2/25	969	▼ -31
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	842	▲ 79
	輸出	"	141	▼ -118
	在庫	2/25	1,692	▼ -13
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/21 ~ 2/27	71.8	▲ 0.2
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	2/21 ~ 2/27	73.0	► 0.0
	(TOCOM/中部)	2/27	73.6	▼ -1.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/27	167.4	► 0.0
				▼ -5.4

※業転、先物価格は税抜き価格

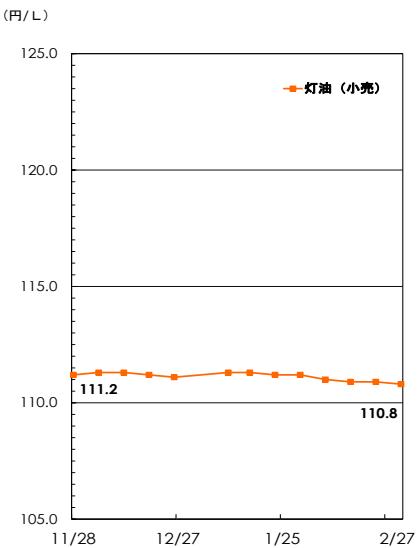


軽油		今週	前週比	前年比
需給				
需給	生産	2/19 ~ 2/25	817	▲ 74
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	663	▲ 78
	輸出	"	214	▲ 142
	在庫	2/25	1,239	▼ -61
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/21 ~ 2/27	74.6	▲ 0.2
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	2/21 ~ 2/27	76.1	▼ -0.5
	(TOCOM/中部)	2/27	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/27	147.5	▼ -0.1
				▼ -5.0

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週	前週比	前年比
需給				
需給	生産	2/19 ~ 2/25	319	▲ 45
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	411	▲ 39
	輸出	"	31	▲ 16
	在庫	2/25	1,339	▼ -123
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/21 ~ 2/27	75.6	▲ 0.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	2/21 ~ 2/27	75.3	▼ -0.2
	(TOCOM/中部)	2/27	76.3	▼ -0.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/27	110.8	▼ -0.1
				▼ -2.1



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(2月23日～3月1日)のWTI石油先物市場は、23日の75.39ドルで始まり、ロシアによる追加減産観測や中国経済の回復期待から、27日の値下がりを除き、概ね堅調に推移し、3月1日の77.69ドルで終わった。

一日遅れの2月23日発表の17日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計によれば、原油在庫は前週比760万バレル増と、市場予想を大きく上回る9週連続の積み増し、2021年5月以来の高水準在庫となった。また、3月1日発表の2月24日時点の米国国内週間在庫統計は、原油在庫は前週比120万バレル増と市場予想を上回ったものの、ガソリン在庫は同90万バレル減と市場予想

に反した取り崩しになり、石油製品需給の先行き引き締まりを予想させた。

EIAによると、2月27日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比3.7セント値下がりの1ガロン3.342.ドル(121.0円/㍑)と4週連続の値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比8.2セント値下がりの1ガロン4.294ドル(155.5円/㍑)と4週連続の値下がりであった。

ベーカーヒューズ社によると、2月24日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比7基減の600基と2週連続で減少した。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年2月19日～2月25日に休止したトッパー能力は10.5万バレル/日で、前週に対して6.4万バレル/日減少した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は309.6万㎘と、前週に比べ3.6万㎘増加。前年に対しては7.1万㎘の増加。トッパー稼働率は83.5%と前週に対して1.0ポイントの増加、前年に対しては4.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.1%減、ジェット/10.9%減、灯油/16.2%増、軽油/10.0%増、A重油/14.8%減、C重油/34.4%増。今週のC重油の輸入は0.0万㎘(前週比0.6万㎘減)。軽油の輸出は21.4万㎘(前週比14.2万㎘増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べて、ガソリン、灯油、軽油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は84.2万㎘(前週10.4%増)と2週ぶりに増加した。ジェット-2.8万㎘(前週144.8%減)、灯油41.1万㎘(前週10.6%増)、

軽油66.3万㎘(対前週13.4%増)、A重油23.4万㎘(対前週10.6%減)、C重油18.3万㎘(対前週16.0%減)。

(単位:千㎘)

	今週 (2/19 ~ 2/25)	前週 (2/12 ~ 2/18)	前週比
ガソリン	842	763	▲ 79 (10%)
ジェット燃料	-28	62	▼ -90 (-145%)
灯油	411	372	▲ 39 (10%)
軽油	663	585	▲ 78 (13%)
A重油	234	262	▼ -28 (-11%)
C重油	183	218	▼ -35 (-16%)
合 計	2,305	2,262	▲ 43 (2%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

2月25日時点の在庫はジェットが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては軽油、A重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは169.2万㎘、前週差1.3万㎘減。前年に対しては3.0万㎘多い。

灯油は133.9万㎘、前週差12.3万㎘減。前年に対しては1.0万㎘多い。

軽油は123.9万㎘、前週差6.1万㎘減。前年に対しては20.5万㎘少ない。

A重油は68.1万㎘、前週差0.7万㎘減。前年に対しては0.5万㎘少ない。

C重油は166.3万㎘、前週差4.9万㎘減。前年に対しては2.9万㎘多い。

(単位:千㎘)

	今週 (2/25)	前週 (2/18)	前週比
ガソリン	1,692	1,705	▼ -13 (-1%)
ジェット燃料	771	736	▲ 35 (5%)
灯油	1,339	1,462	▼ -123 (-8%)
軽油	1,239	1,300	▼ -61 (-5%)
A重油	681	688	▼ -7 (-1%)
C重油	1,663	1,712	▼ -49 (-3%)
合 計	7,385	7,603	▼ -218 (-2.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

2月21日～27日のドル建て中東原油価格は値下がりし、為替レートの円安がこれを一部相殺したが、元売会社の円建て原油コストは、2月積み中東原油の調整金値下げもあって、2.0円値下がりしたものと見られる。

上記コストダウンに先週の補助金額18.7円を加えたコスト上昇額16.7円に、今週も補助金17.0円が支給されることか

ら、3/2～3/8の元売会社の実質的な卸価格は0.3円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

2月21日～27日の製品スポット市況は、2月14日～20日平均と比べ、灯油の海上取引とガソリンの先物取引の横ばい、灯油と軽油の先物取引の値下がりを除き、他の取引・油種で値上がりした。

直近週(2/21～2/27)の陸上スポット価格平均値は、前週(2/14～2/20)比で、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油も0.5円の値上がり、軽油も0.2円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(2/21～2/27)に、前週(2/14～2/20)比で、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は0.1円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.2円の値下がり、軽油も0.5円の値下がりだった。

		(単位:円/%)		
		今週 (2/21～2/27)	前週 (2/14～2/20)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	71.8	71.6	▲ 0.2
	灯油	75.6	75.1	▲ 0.5
	軽油	74.6	74.4	▲ 0.2

		(単位:円/%)		
		今週 (2/21～2/27)	前週 (2/14～2/20)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	73.0	73.0	➡ 0.0
	灯油	75.3	75.5	▼ -0.2
	軽油	76.1	76.6	▼ -0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (2/21～2/27実績値) (単位:円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.2	➡ 0.0	▲ 0.1
灯油	▲ 0.5	▼ -0.2	▲ 0.2
軽油	▲ 0.2	▼ -0.5	▼ -0.1
A重油	▲ 0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

2月27日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの167.4円、軽油は0.1円値下がりの147.5円、灯油は18.4%ベースで2円安の1,995円(1%ベースでは0.1円安の110.8円)。ガソリンは2週連続の横ばい、軽油は2週ぶりの値下がり、灯油は2週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは17府県、横ばいは13道県、値下がりは17都県だった。全国最安値は徳島県の160.1円、その次は宮城県の160.4円であった。他方、最高値は長崎県の180.8円だった。

最も値上がりしたのは京都府(前週比0.7円高)、横ばいは高知県等13道県、最も値下がりしたのは兵庫県(同0.9円安)だった。

次回調査時(3/6)のガソリンの小売価格は、横ばいないし小幅な値動きが予想される。

(単位:円/%)				
(資工庁公表) [週動向]	今週 (2/27)	前週 (2/20)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー	167.4	167.4	➡ 0.0
	灯油	110.8	110.9	▼ -0.1
	軽油	147.5	147.6	▼ -0.1

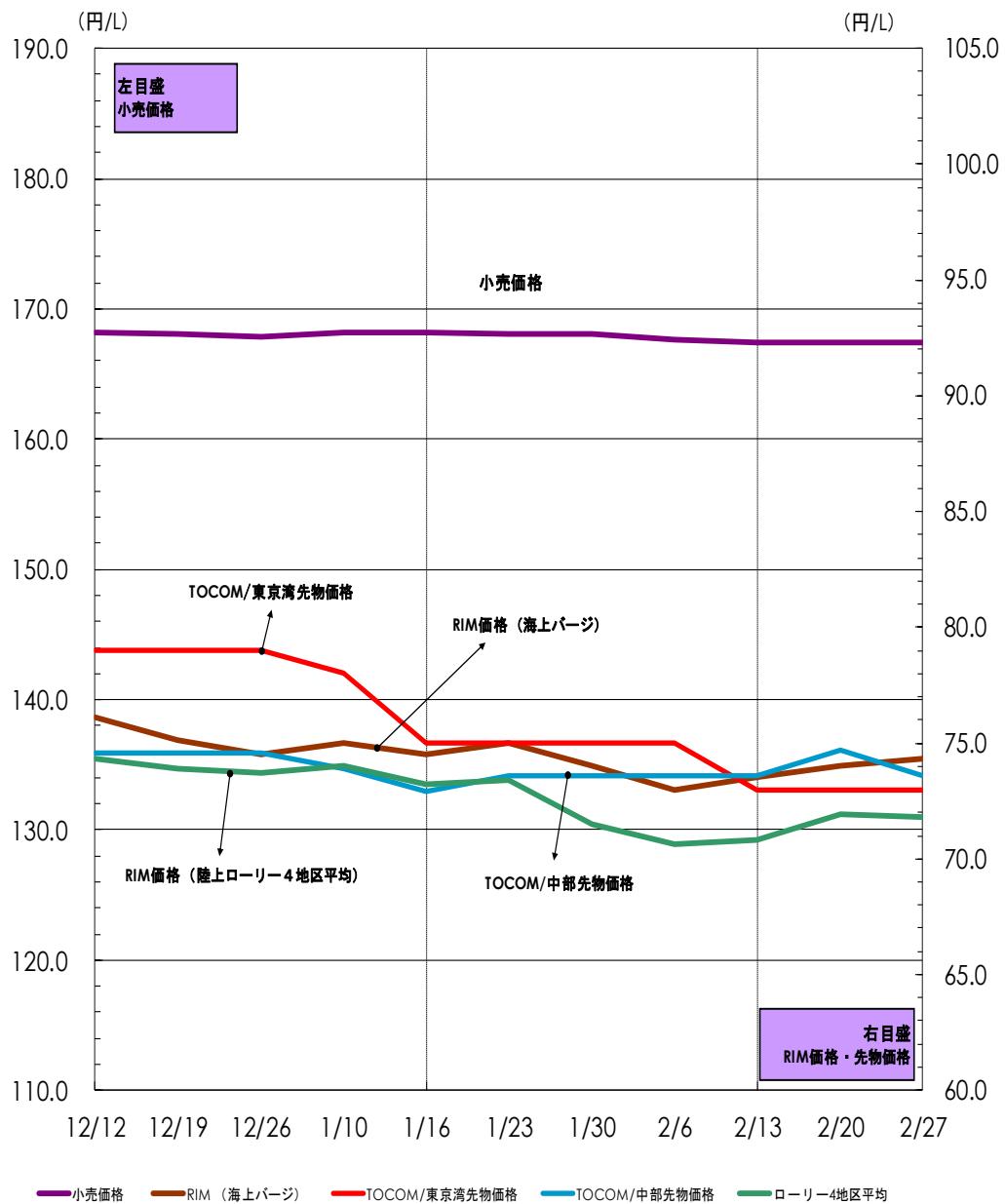
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/12/12 ~ 2023/2/27)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。

次回（2022第47号）の公表は、3/10（金）14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。